校異源氏物語・こてふ

やよひのはつかあまりのころほひ春の御前のありさまつねよりことにつくしてにほふ花の色とりのこゑほかのさとにはまたふりぬにやとめつらしうみえきこゆ山のこたちなかしまのわたりいろまさるこけのけしきなとわかき人　くのはつかに心もとなくおもふへかめるにからめいたるふねつくらせ給けるいそきさうそかせ給ひておろしはしめさせ給ひはうたつかさの人めして舟のかくせらるみこたちかむたちめなとあまたまいり給へり中宮この比さとにおはしますかの春まつそのはとはけましきこえ給へりし御かへりもこの比やとおほしおとゝの君もいかてこの花のおり御らむせさせむとおほしのたまへとついてなくてかるらかにはひわたりはなをもゝてあそひ給ふへきならねはわかき女はうたちのものめてしぬへきをふねにのせ給うてみなみのいけのこなたにとほしかよはしなさせ給へるをちゐさき山をへたてのせきにみせたれとそのやまのさきよりこきまひてひむかしのつり殿にこなたのわかき人　くあつめさせたまふ竜頭鷁首をからのよそひにこと　くしうしつらひてかちとりのさをさすわらはへみなみつらゆひてもろこしたゝせてさるおほきなるいけのなかにさしいてたれはまことのしらぬくにゝきたらむ心ちしてあはれにおもしろくみならはぬ女はうなとはおもふなかしまのいりえのいはかけにさしよせてみれははかなきいしのたゝすまひもたゝゐにかいたらむやうなりこなたかなたかすみあひたるこすゑともにしきをひきわたせるにおまへのかたははる　くとみやられていろをましたるやなきえたをたれたる花もえもいはぬにほひをちらしたりほかにはさかりすきたるさくらもいまさかりにほおえみらうをめくれるふちの色もこまやかにひらけゆきにけりましていけのみつにかけをうつしたるやまふききしよりこほれていみしきさかりなりみつとりとものつかひをはなれすあそひつゝほそきえたともをくひてとひちかふをしのなみのあやにもんをましへたるなとものゝゑゐやうにもかきとらまほしきまことにをののえもくたいつへうおもひつゝひをくらす

かせふけはなみの花さへ色みえてこやなにたてるやまふきのさき
はるのいけやゐてのかはせにかよふらんきしの山ふきそこもにほへり

かめのうへの山もたつねしふねのうちにおいせぬなをはこゝにのこさむ

春の日のうらゝにさしてゆくふねはさほのしつくも花そちりけるなとやう

のはかなことゝもを心　くにいひかはしつゝゆくかたもかへらむさともわすれ

ぬへうわかき人　くの心をうつすにことはりなる水のおもになむくれかゝるほ

とにわうしやうといふかくいとおもしろくきこゆるに心にもあらすつり殿にさ

しよせられておりぬこゝのしつらひいとことそきたるさまになまめかしきに御

方かたのわかき人とものわれおとらしとつくしたるさうすくかたちはなをこき

ませたるにしきにおとらすみえわたる世にめなれすめつらかなるかくともつか

うまつるまひ人なと心ことにえらはせ給て夜にいりぬれはいとあかぬ心ちして

御前のにはにかゝり火ともしてみはしのもとのこけのうへにかく人めしてかん

たちめみこたちもみなをの　くひきものふきものとりとりにしたまふものゝし

ともことにすくれたるかきりそうてうふきてうへにまちとる御ことゝものしら

へいとはなやかにかきたてゝあなたうとあそひ給ふほといけるかひありとなに

のあやめもしらぬしつのをもみかとのわたりひまなきむまくるまのたちとにま

しりてゑみさかへきゝけりそらのいろものゝねもはるのしらへひゝきはいとこ

とにまさりけるけちめを人　くおほしわくらむかし夜もすからあそひあかし給

かへりこゑに喜春楽たちそひて兵部卿みやあをやきおりかへしおもしろくうた

ひ給あるしのおとゝもことくはへ給ふ夜もあけぬあさほらけのとりのさえつり

を中宮はものへたてゝねたうきこしめしけりいつも春の光をこめ給へるおほ殿

なれと心をつくるよすかのまたなきをあかぬ事におほす人　くもありけるにに

しのたいのひめ君こともなき御ありさまおとゝのきみもわさとおほしあかめき

こえたまふ御けしきなとみなよにきこえいてゝおほししもしるく心なひかし給

人おほかるへしわか身さはかりとおもひあかり給ふきはの人こそたよりにつけ

つゝけしきはみこといてきこえ給ふもありけれえしもうちいてぬ中の思ひにも

えぬへきわかきむたちなともあるへしそのうちにことの心をしらてうちのおほ

いとのの中将なとはすきぬへかめり兵部卿の宮はたとしころおはしけるきたの

方もうせ給てこのみとせはかりひとりすみにてわひたまへはうけはりていまは

けしきはみたまふけさもいといたうそらみたれしてふちのはなをかさしてなよ

ひさうとき給へる御さまいとおかしおとゝもおほしゝさまかなふとしたにはお

ほせとせめてしらすかほゝつくり給御かはらけのついてにいみしうもてなやみ

たまうておもふ心侍らすはまかりにけ侍なましいとたえかたしやとすまひ給ふ

むらさきのゆへにこゝろをしめたれはふちに身なけんなやはおしけきとて

おとゝの君におなしかさしをまいり給いといたうほをゑみ給ひて

ふちにみをなけつへしやとこの春は花のあたりをたちさらてみよとせちにとゝめたまへはえたちあかれ給はてけさの御あそひましていとおもしろしけふは中宮のみと経のはしめなりけりやかてまかて給はてやすみ所とりつゝひの御よそひにかへ給ふ人　くもおほかりさはりあるはまかてなともしたまふむまの時はかりにみなあなたにまいり給ふおとゝの君をはしめたてまつりてみなつきわたり給ふ殿上人なとものこるなくまいるおほくはおとゝの御いきほひにもてなされ給ひてやむことなくいつくしき御ありさまなりはるのうへの御心さしにほとけにはなたてまつらせ給ふとりてふにさうそきわけたるわらはへ八人かたちなとことにとゝのへさせ給ひてとりにはしろかねのはなかめにさくらをさしてふはこかねのかめにやまふきをおなしきはなのふさいかめしう世になきにほひをつくさせ給へりみなみの御まへのやまきはよりこきいてゝをまへにいつるほと風ふきてかめのさくらすこしうちゝりまかふいとうらゝかにはれてかすみのまよりたちいてたるはいとあはれになまめきてみゆわさとひらはりなともうつされすおまへにわたれるらうをかくやのさまにしてかりにあくらともをめしたりわらはへともみはしのもとによりてはなともたてまつる行香の人　くとりつきてあかにくはへさせ給御せうそこ殿の中将の君してきこえ給へり

はなそのゝこてふをさへやしたくさに秋まつむしはうとくみるらむ宮かの紅葉の御かへりなりけりとほおゑみて御らむすきのふの女はうたちもけに春のいろはえおとさせ給ましかりけりとはなにおれつゝきこえあへりうくひすのうらゝかなるねにとりのかくはなやかにきゝわたされていけのみつとりもそこはかとなくさへつりわたるにきうになりはつるほとあかすおもしろしてうはましてはかなきさまにとひたちてやまふきのませのもとにさきこほれたる花のかけにまひいつる宮のすけをはしめてさるへきうへ人ともろくとりつゝきてわらはへにたふとりにはさくらのほそなかてふにはやまふきかさね給はるかねてしもとりあへたるやうなりものゝしともはしろきひとかさねこしさしなとつき　くにたまふ中将の君にはふちのほそなかそへて女のさうそくかつけ給ふ御かへりきのふはねになきぬへくこそは

こてふにもさそはれなましこゝろありてやへ山ふきをへたてさりせはとそありけるすくれたる御らうともにかやうの事はたへぬにやありけむおもふやうにこそみえぬ御くちつきともなめれまことやかのみものゝ女はうたち宮のにはみなけしきあるをくりものともせさせ給ふけりさやうのことくはしけれはむつ

かしあけくれにつけてもかやうのはかなき御あそひしけく心をやりてすくし給
へはさふらふ人もをのつからものおもひなきこゝちしてなむこなたかなたにも
きこえかはし給ふにしのたいの御方はかのたうかのおりの御たいめんのゝちは
こなたにもきこえかはし給ふかき御心もちゐやあさくもいかにもあらむけしき
いとらうありなつかしき心はへとみえて人の心へたつへくもゝのしたまはぬひ
とさまなれはいつかたにもみな心よせきこえ給へりきこえ給人いとあまたもの
し給されとおとゝおほろけにおほしさたむへくもあらすわか御心にもすくよか
におやかりはつましき御心やそふらむちゝおとゝにもしらせやしてましなとお
ほしよるおり　くもありとのゝ中将はすこしけちかくみすのもとなとにもより
て御いらへ身つからなとするも女はつゝましうおほせとさるへきほとゝ人　く
もしりきこえたれは中将はすく　くしくておもひもよらす内のおほいとのゝ君
たちはこの君にひかれてよろつにけしきはみわひありくをその方のあはれには
あらてしたに心くるしうまことのおやにさもしられたてまつりにしかなと人し
れぬ心にかけたまへれとさやうにもゝらしきこえ給はすひとへにうちとけたの
みきこえ給心むけなとらうたけにわかやかなりにるとはなけれとなをはゝ君の
けはひにいとよくおほえてこれはかとめいたるところそゝひたるころもかへの
いまめかしうあらたまれるころほひそらのけしきなとさへあやしうそこはかと
なくおかしきをのとやかにおはしませはよろつの御あそひにてすくし給ふにた
いの御方に人　くの御ふみしけくなりゆくをおもひしことゝおかしうおほいて
ともすれはわたり給ひつゝこらむしさるへきには御かへりそゝのかしきこえ給
ひなとするをうちとけすくるしいことにおほいたり兵部卿の宮のほとなくいら
れかましきわひことゝもをかきあつめたまへるおほむふみをこらむしつけてこ
まやかにわらひ給ふはやうよりへたつることなうあまたのみこたちの御なかに
このきみをなんかたみにとりわきておもひしにたゝかやうのすちのことなむゐ
みしうへたておもふ給ひてやみにしをよのするゑにかくすき給へる心はえをみる
かおかしうもあはれにもおほゆるかなゝを御かへりなときこえ給へすこしもゆ
へあらむ女のかのみこよりほかにまたことのはをかはすへき人こそ世におほえ
ねいとけしきある人の御さまそやとわかき人はめて給ひぬへくきこえしらせ給
へとつつましくのみおほいたり右大将のいとまめやかにこと　くしきさました
る人のこひのやまにはくしのたうれまねひつへきけしきにうれへたるもさるか
たにおかしとみなみくらへ給なかにからのはなたのかみのいとなつかしうしみ
ふかうにほへるをいとほそくちひさくむすひたるありこれはいかなれはかくむ

すほゝれたるにかとてひきあけたまへりていとおかしうて

おもふとも君はしらしなわきかへりいはもるみつにいろしみえねはかきさまゐまめかしうそほれたりこれはいかなるそとゝひきこえ給へとはか　くしうもきこえ給はす右近をめしいてゝかやうにをとつれきこえん人をはひとえりしていらへなとはせさせよすき　くしうあされかましきいまやうの人のひんないことしいてなとするをのこのとかにしもあらぬ事なりわれにて思ひしにもあなゝさけなうらめしうもとそのおりにこそむしむなるにやもしはめさましかるへききはゝけやけうなともおほえけれわさとふかゝらてはなてふにつけたるたよりことは心ねたうもてないたるなか　く心たつやうにもありまたさてわすれぬるはなにのとかゝはあらむものゝたよりはかりのなをさりことにくちとう心えたるもさらてありぬへかりけるのちのなむとありぬへきわさなりすへて女のものつゝみせす心のまゝにものゝあはれもしりかほつくりおかしき事をもみしらんなんそのつもりあちきなかるへきを宮大将はおほな　くなをさりことをうちいて給へきにもあらすまたあまりものゝほとしらぬやうならんも御ありさまにたかへりそのきはよりしもは心さしのおもむきにしたかひてあはれをもわき給へらうをもかそへ給へなときこえ給へはきみはうちそむきておはするそはめいとおかしけなりなてしこのほそなかにこのころのはなのいろなる御こうちきあはひけちかういまめきてもてなしなともさはいへとゐなかひ給へりしなこりこそたゝありにおほとかなるかたにのみはみえ給ひけれ人のありさまをもみしり給ふまゝにいとさまようなよひかにけさうなとも心してもてつけたまへれはいとゝあかぬ所なくはなやかにうつくしけなりこと人とみなさむはいとくちおしかへうおほさるうこむもうちゐみつゝみたてまつりておやときこえんにはにけなうわかくおはしますめりさしならひたまへらんはしもあはひめてたしかしとおもひゐたりさらに人の御せうそこなとはきこえつたふる事侍らすさきさきもしろしめし御らむしたるみつよつはひきかへしはしたなめきこえむもいかゝとて御ふみはかりとりいれなとし侍めれと御かへりはさらにきこえさせ給ふおりはかりなむそれをたにくるしいことにおほいたるときこゆさてこのわかやかにむすほゝれたるはたかそいといたうかいたるけしきかなとほゝゑみて御らんすれはかれはしふねうとゝめてまかりにけるにこそ内のおほいとのゝ中将のこのさふらふみるこをそもとよりみしり給へりけるつたへにて侍けるまたみいるゝ人も侍らさりしにこそときこゆれはいとらうたき事かなけらうなりともかのぬしたちをはいかゝいとさはゝしたなめむ公卿といへとこの人のおほえにかなら

すしもならふましきこそおほかれさるなかにもいとしつまりたる人なりをのつ
から思ひあはする世もこそあれけちえむにはあらてこそいひまきらはさめみと
ころあるふみかきかなゝととみにもうちをきたまはすかうなにやかやときこゆ
るをもおほす所やあらむとやゝましきをかのおとゝにしられたてまつり給はむ
事もまたわか　くしうなにとなきほとにこゝらとしへ給へる御なかにさしいて
給はむ事はいかゝとおもひめくらし侍るなを世のひとのあめるかたにさたまり
てこそはひとひとしうさるへきついてもゝのしたまはめとおもふを宮はひとり
ものし給やうなれとひとからいといたうあためいてかよひたまふところあまた
きこえめしうとゝかにくけなるなのりする人ともなむかすあまたきこゆるさや
うならむ事はにくけなうてみなほいたまはむ人はいとようなたらかにもてけち
てむすこし心にくせありては人にあかれぬへきことなむをのつからいてきぬへ
きをその御心つかひなむあへき大将はとしへたる人のいたうねひすきたるをい
とひかてにともとむなれとそれも人　くわつらはしかるなりさもあへい事なれ
はさまさまになむ人しれす思ひさためかね侍るかうさまのことはおやなとにも
さはやかにわかおもふさまとてかたりいてかたきことなれとさはかりの御よは
ひにもあらすいまはなとかなにことをも御心にわいたまはさらむまろをむかし
さまになすらへてはゝ君と思ひないたまへ御心にあかさらむことは心くるしく
なといとまめやかにてきこえ給へはくるしうて御いらへきこえむともおほえ給
はすいとわか　くしきもうたておほえてなにこともおもひしり侍らさりけるほ
とよりおやなとはみぬものにならひ侍てともかくも思ふたまへられすなむとき
こえ給さまのいとおいらかなれはけにとおほいてさらは世のたとひのゝちのお
やをそれとおほいてをろかならぬ心さしのほともみあらはしはて給てむやなと
うちかたらひ給おほすさまのことはまはゆけれはえうちいて給はすけしきある
ことはゝとき　くませ給へとみしらぬさまなれはすゝろにうちなけかれてわた
り給おまへちかきくれたけのいとわかやかにおいたちてうちなひくさまのなつ
かしきにたちとまり給うて
　ませのうちにねふかくうへし竹のこのをのかよゝにやおひわかるへきおも
へはうらめしかへい事そかしとみすをひきあけてきこえ給へはゐさりいてゝ
　いまさらにいかならむよかわかたけのおいはしめけむねをはたつねんなか
くにこそ侍らめときこえ給ふをいとあはれとおほしけりさるは心のうちには
さもおもはすかしいかならむおりきこえいてむとすらむと心もとなくあはれな
れとこのおとゝの御心はへのいとありかたきをおやときこゆともとよりみな

れたまはぬはえかうしもこまやかならすやとむかしものかたりをみ給にもやう
　く人のありさま世中のあるやうをみしり給へはいとつゝましう心としられた
てまつらむことはかたかるへうおほすとのはいとゝらうたしとおもひきこえ給
ふうへにもかたり申たまふあやしうなつかしき人のありさまにもあるかなかの
いにしへのはあまりはるけ所なくそありしこの君はものゝありさまもみしりぬ
へくけちかきこゝろさまそひてうしろめたからすこそみゆれなとほめたまふた
ゝにしもおほすましき御心さまをみしり給へれはおほしよりてものゝ心えつへ
くはものし給ふめるをうらなくしもうちとけたのみきこえ給らんこそ心くるし
けれとのたまへはなとたのもしけなくやはあるへきときこえ給へはいてやわれ
にてもまたしのひかたうものおもはしきおりおりありし御心さまの思いてらる
ゝふしふしなくやはとほゝゑみてきこえ給へはあな心とゝおほいてうたてもお
ほしよるかないとみしらすしもあらしとてわつらはしけれはの給ひさして心の
うちに人のかうをしはかり給ふにもいかゝはあへからむとおほしみたれかつは
ひか　くしうけしからぬわかこゝろのほともおもひしられ給ふけり心にかゝれ
るまゝにしは　くわたり給ひつゝみたてまつり給あめのうちふりたるなこりの
いとものしめやかなるゆふつかた御まへのわかゝえてかしわきなとのあをやか
にしけりあひたるかなにとなく心ちよけなるそらをみいたし給ひてわしてまた
きよしとうちすし給うてまつこのひめ君の御さまのにほひやかけさをおほしい
てられてれいのしのひやかにわたり給へりてならひなとしてうちとけ給へりけ
るをおきあかり給てはちらひ給へるかほのいろあひいとおかしなこやかなるけ
はひのふとむかしおほしいてらるゝにもしのひかたくてみそめたてまつりしは
いとかうしもおほえ給はすと思ひしをあやしうたゝそれかとおもひまかへらる
ゝおり　くこそあれあはれなるわさなりけり中将のさらにむかしさまのにほひ
にもみえぬならひにさしもにぬものと思ふにかゝる人もゝのしたまうけるよと
てなみたくみ給へりはこのふたなる御くたものゝなかにたちはなのあるをまさ
くりて
　たちはなのかほりしそてによそふれはかはれるみともおもほえぬかなよと
ゝもの心にかけてわすれかたきになくさむことなくてすきつるとしころをかく
てみたてまつるはゆめにやとのみおもひなすをなをえこそしのふましけれおほ
しうとむなよとて御てをとらへたまへれは女かやうにもならひ給はさりつるを
いとうたておほゆれとおほとかなるさまにてものし給ふ
　そてのかをよそふるからにたちはなのみさへはかなくなりもこそすれむつ

かしとおもひてうつふし給へるさまいみしうなつかしうてつきのつふ　くとこゑ給へるみなりはたつきのこまやかにうつくしけなるに中　くなるものおもひそふこゝちしたまてけふはすこしおもふこときこえしらせ給ひける女は心うくいかにせむとおほえてわなゝかるけしきもしるけれとなにかゝくうとましとはおほいたるいとよくもてかくして人にとかめらるへくもあらぬ心のほとそよさりけなくてをもてかくし給へあさくも思きこえさせぬ心さしにまたそふへけれは世にたくひあるましきこゝちなんするをこのをとつれきこゆる人　くにはおほしおとすへくやはあるいとかうふかき心ある人は世にありかたかるへきわさなれはうしろめたくのみこそとのたまふいとさかしらなる御おや心なりかしあめはやみてかせのたけになるほとはなやかにさしいてたる月かけおかしきよのさまもしめやかなるに人　くはこまやかなる御ものかたりにかしこまりをきてけちかくもさふらはすつねにみたてまつり給ふ御なかなれとかくよきおりしもありかたけれはことにいてたまへるついての御ひたふる心にやなつかしい程なる御そとものけはひはいとようまきらはしすへしたまひてちかやかにふし給へはいと心うく人のおもはむ事もめつらかにいみしうおほゆまことのおやの御あたりならましかはおろかにはみはなち給ふともかくさまのうき事はあらましやとかなしきにつゝむとすれとこほれいてつゝいとこゝろくるしき御けしきなれはかうおほすこそつらけれもてはなれしらぬ人たによのことはりにてみなゆるすわさなめるをかくとしへぬるむつましさにかはかりみえたてまつるやなにのうとましかるへきそこれよりあなかちなる心はよもみせたてまつらしおほろけにしのふるにあまるほとをなくさむるそやとてあはれけになつかしうきこえ給事おほかりましてかやうなるけはひはたゝむかしの心ちしていみしうあはれなりわか御心なからもゆくりかにあはつけきこととおほししらるれはいとよくおほしかへしつゝ人もあやしとおもふへけれはいたう夜もふかさていて給ぬおもひうとみたまはゝいと心うくこそあるへけれよその人はかうほれ　くしうはあらぬものそよかきりなくそこひしらぬこゝろさしなれはひとのとかむへきさまにはよもあらしたゝむかしこひしきなくさめにはかなきことをもきこえんおなし心にいらへなとし給へといとこまかにきこへ給へとわれにもあらぬさましていと　くうしとおほいたれはいとさはかりにはみたてまつらぬ御心はへをいとこよなくもにくみたまふへかめるかなとなけきたまいてゆめけしきなくてをとていて給ひぬ女君も御としこそすくし給ひにたるほとなれ世中をしりたまはぬなかにもすこしうちよなれたる人のありさまをたにみしりたまはねはこれより

けちかきさまにもおほしよらすおもひのほかにもありけるよかなとなけかしきにいとけしきもあしけれはひと　く御心ちなやましけにみえ給ふともてなやみきこゆとのゝ御けしきのこまやかにかたしけなくもおはしますかなまことの御おやときこゆともさらにかはかりおほしよらぬことなくはもてなしきこえ給はしなと兵部なともしのひてきこゆるにつけていとゝおもはすに心つきなき御心のありさまをうとましう思はてたまふにも身そ心うかりけるまたのあした御文とくありなやましかりてふし給へれと人　く御すゝりなとまいりて御かへりとくときこゆれはしふ　くにみたまふしろきかみのうはへはおひらかにすく　くしきにいとめてたうかいたまへりたくひなかりし御けしきこそつらきしもわすれかたういかに人みたてまつりけむ

うちとけてねもみぬものをわかくさのことありかほにむすほゝるらむおさなくこそものし給ひけれとさすかにおやかりたる御ことはもいとにくしとみたまひて御かへり事きこえさらむも人めあやしけれはふくよかなるみちのくにかみにたゝうけたまはりぬみたり心ちのあしう侍れはきこえさせぬとのみあるにかやうのけしきはさすかにすくよかなりとほゝゑみてうらみ所ある心ちしたまふうたてある心かないろにゐてたまひてのちはおほたのまつのとおもはせたることなくむつかしうきこえ給ことおほかれはいとゝところせきこゝちしてをき所なきものおもひつきていとなやましうさへし給ふかくてことの心しる人はすくなうてうときもしたしきもむけのおやさまに思きこえたるをかうやうのけしきのもりいてはいみしう人わらはれにうきなにもあるへきかなちゝおとゝなとのたつねしり給にてもまめまめしき御心はへにもあらさらむものからましていとあはつけうまちきゝおほさんことゝよろつにやすけなうおほしみたる宮大将なとはとのゝ御けしきもてはなれぬさまにつたへきゝ給うていとねんころにきこえたまふこのいはもる中将もおとゝの御ゆるしをみてこそかたよりにほのきゝてまことのすちをはしらすたゝひとへにうれしくてをりたちうらみきこえまとひありくめり